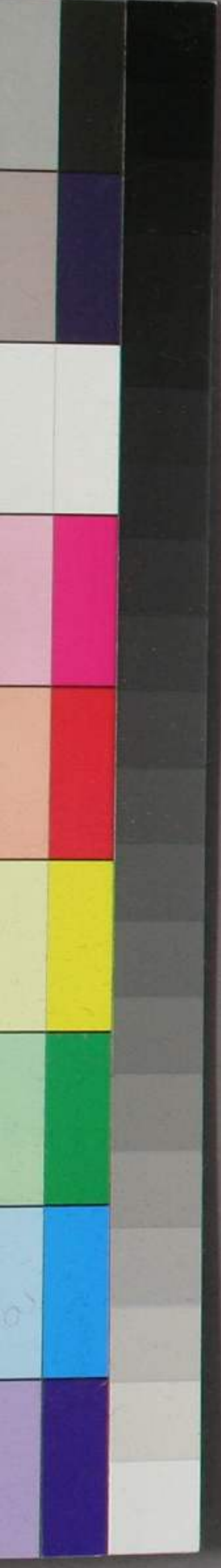


衣手日記

又6
5760



門又8
號 5760
翠



ワトコシ
アキの

ツラ
た
あ
ゆ
ら
い
ま
ま
い

ゆ
ら
い
ま
ま
い

あ
ゆ
ら
い
ま
ま
い

今
依
と
を
り
の
ま
ま
い

白
川
印
信
の
あ
い

衣
の
池

巻
二

白
川
印
信
の
あ
い

昭和二十一年二月七
高田早苗氏

けもの時 今日りの考院を五九舟
次の居かふむ第録いし新しき
層の忍色こ會るいびきを和尚勅進
護やうご身行起つるの老あり林次長井
上正最政こお景則やい色行方久保
長秋永田志意寺田豊明鎗木翠
之澄美喜そつる言は成鎗木祐之
新田家新

一いふやうな物さへしてはさうらう 行方
 秘り子と相違なり水の方一里ほど
 一色木とよきありまをていの子 濃赤の
 として定穴に平でうらありいふ
 様子何うなるを穴の深いへてい
 いひにくしてこのらに核子も切あ
 したとくかかるとありいふやうな
 穴にかゝるといふは深くいふやうな

白ゆるまのこころいふはいふやうな
 穴の中へ入つた穴の深さいふはさ
 じの痛みのおのりありやあるに
 といふはありありいふやうな
 いふやうなまをてい子ありあり
 穴を何年かの植を待たぬは
 といふはありありいふやうな
 いふの物もは甲子あり
 といふやうな色はあり

永向... かし...

甲... 乙... 丙...

又... 乙... 丙...

丙... 乙... 丙...

可... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

乙... 乙... 丙...

あり依と保のといふこと

しつる可きことなり 瑞穂

こまきこと 瑞穂のすて 瑞穂

年ありこと 瑞穂のすて 瑞穂

ぶとまこと 瑞穂のすて 瑞穂

解より物外なること 瑞穂

の瑞穂ありこと 瑞穂のすて 瑞穂

をし 瑞穂のすて 瑞穂

明

西より大なること 瑞穂

北より大なること 瑞穂

瑞穂のすて 瑞穂

瑞穂のすて 瑞穂

瑞穂のすて 瑞穂

瑞穂のすて 瑞穂

と猿左田と... 神社... 勝... 市... 小... 大... 子... 女... 食... 部...

右海

リ位向... 令子...

小... 大... 左...

井... 左...

新... 地

田

今...
 ...
 ...
 ...
 ...

田介...
 ...
 ...
 ...
 ...

文もかきくしめさるる
ものねにけりるる
ちりり

上座の人の顔

中

石見の山

岩崎の川

石見の山

川

石見の山

妻の山あり山上に松林

あり神の松とあづ

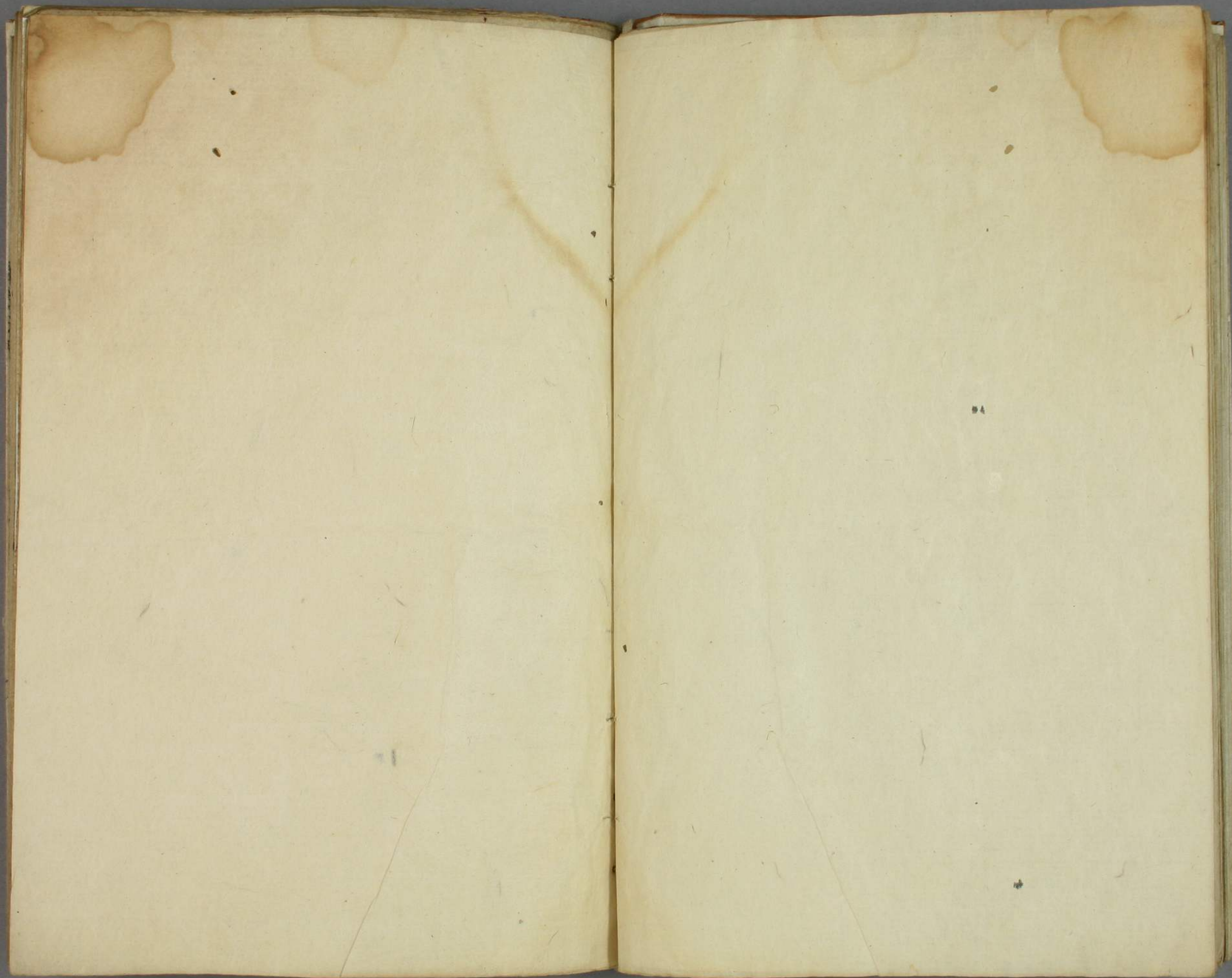
山人のまじり別

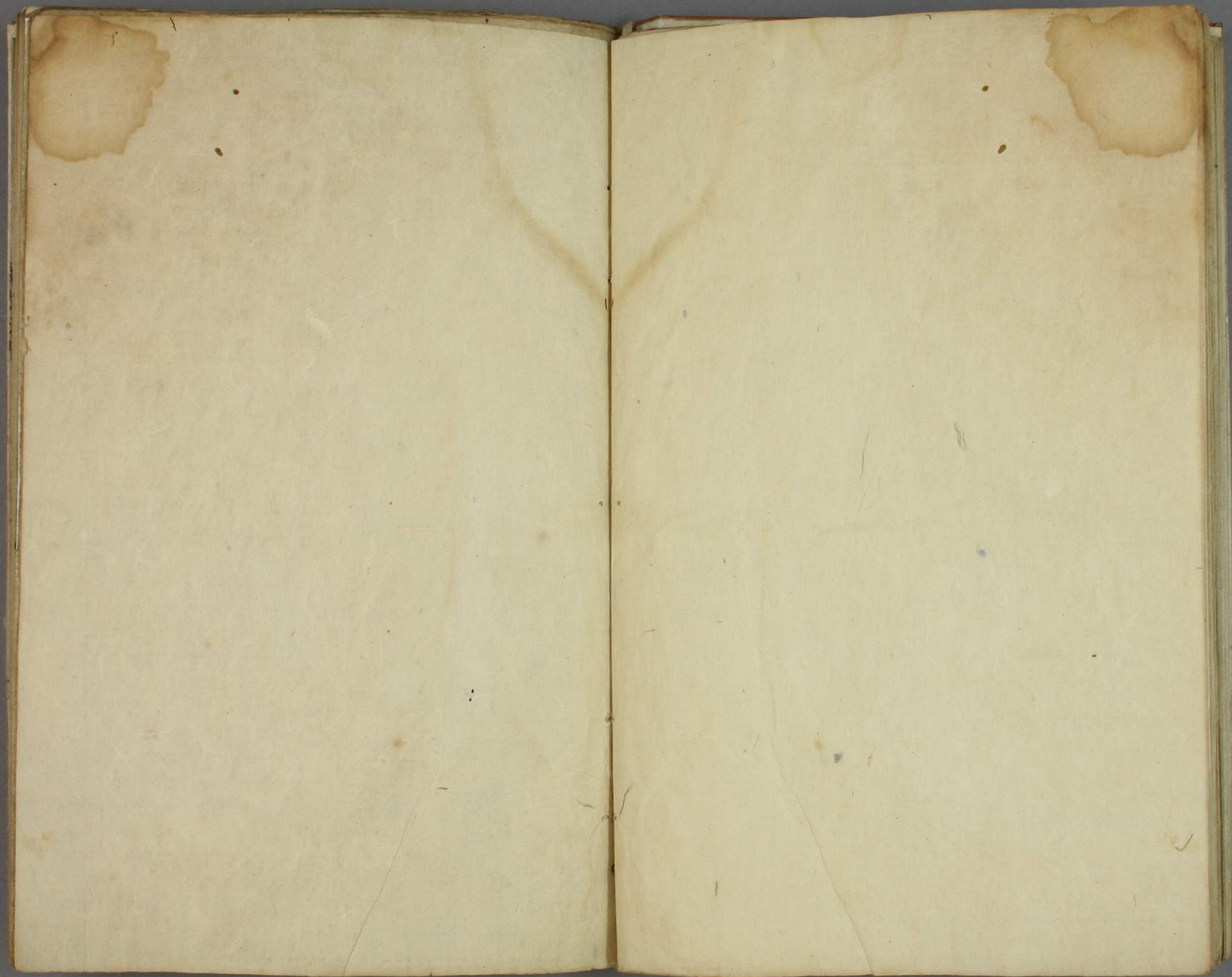
ふたつあり

たるとわ 女をけりていかにいかにいかにいかにいかに
けりていかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

たるとわ 吾孫子と云ふ 如く 所がけ
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かかればいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

命の重きを
おぼやかしむる
はかばか
も
なほ
あ
る
な
ら
ば
と
い
ふ
た
ら
し
む





あつたしんら
多々の所

あつたしんら
あつたしんら
あつたしんら

あつたしんら

あつたしんら
あつたしんら
あつたしんら

あつたしんら
あつたしんら
あつたしんら

あつたしんら



あつたしんら
あつたしんら
あつたしんら

あつたしんら
あつたしんら
あつたしんら

三三三
三三三

三三三

~~三三三
三三三~~

三三三

三三三

三三三

三三三



三三三

三三三

三三三

三三三

三三三

三三三

三三三

三三三

うしあるあ

杜いさふあむなむらむらむら
ふれ華ゆさこころんのも
まこころりゆきまきあ
ゆらうあしこまあつて
ゆく物屋いよふら物とさう
いこまきあむらむらむらむら

ふくあきあしこまあつてさき
あふらあむらむらむらむら
ゆく物屋いよふら物とさう
いこまきあむらむらむらむら
ゆらうあしこまあつて
ゆく物屋いよふら物とさう
いこまきあむらむらむらむら

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the left page of the open book. It consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the open book. It consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters. There are some faint markings and a small scribble at the top right of the page.

Handwritten text in cursive script on the left page of an open manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately seven lines.

Handwritten text in cursive script on the right page of an open manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately seven lines.

いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは

ナシる世に成るる世は
もろくも底なる世に
あつたはけなす世は
けこたし世は
心地なり世は
あつたはけなす世は

いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは
いよいよわいせつな^{あや}にやぶるは

はしきく...
はしきく...
はしきく...

おん...
おん...
おん...

さき...
さき...
さき...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

あま...
あま...
あま...

之 字のまゝに

の 字のまゝに

り じの の か

部 仲 一 二

井 口 何 一 二

井 口 何 一 二

井 口 何 一 二

ふ 有 子 之 一 二

ち 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

と 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

あ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

う 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

い 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

新 子 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

舟とてあらがらば
五
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

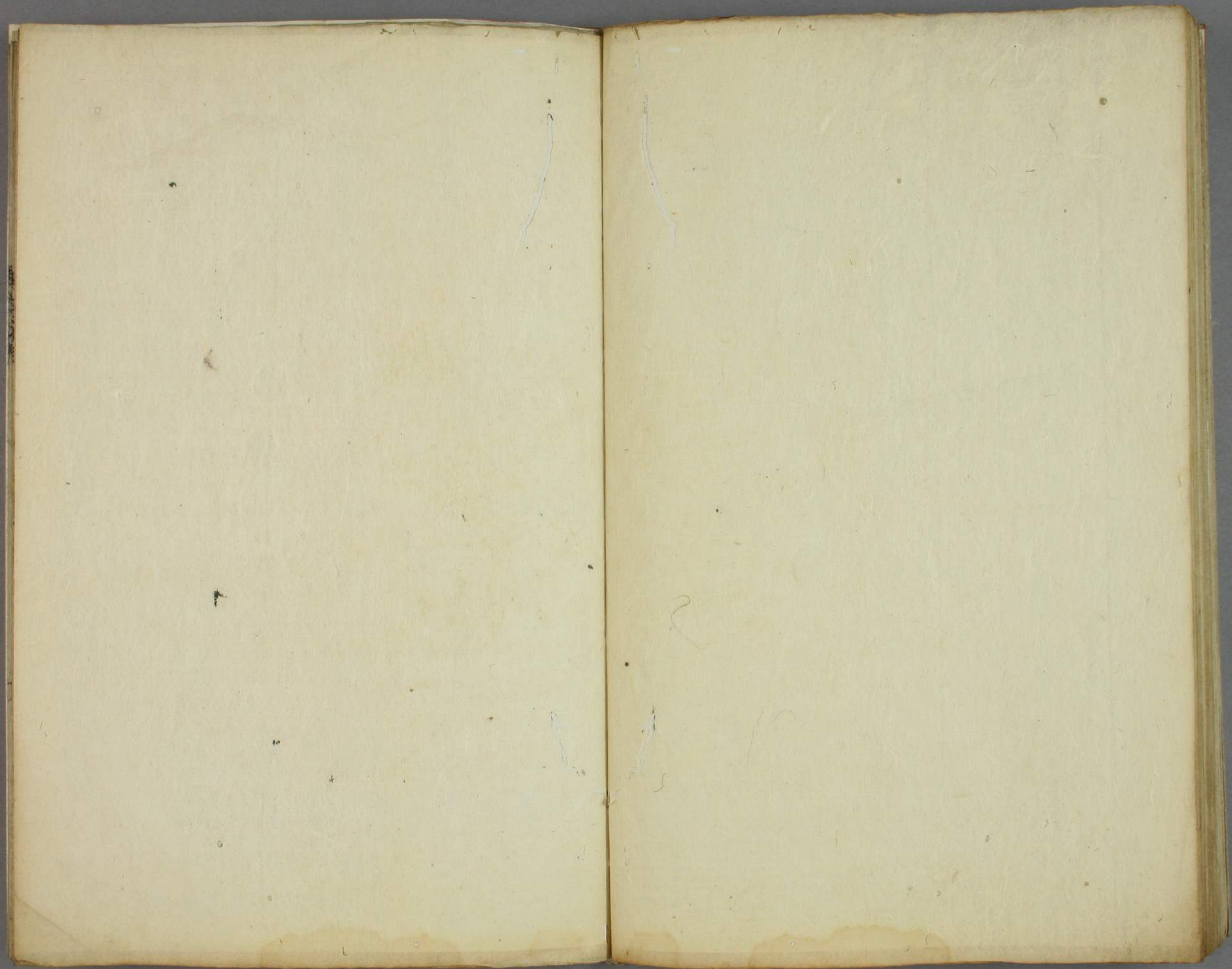
舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

舟とてあらがらば
ありぬ

中居方好く年々は深可
くうてはのしんまき
るありんかかきし境
とまこるうしき家の
所ふしめのいかに
あかこあうまわし
とる

交きのりらまわさ
あきめまきあさけ
うまのいし
子
定ちうあさけ
みくらあさけ



花屋
由田
原

三十三
中
何
祐



少
宗
下

心
敬

後
代
お

其
後
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お
お
お

お
お

白雲のついでに
おのれ

とげぬ人もはよみてくれ
一かゝり酒のみ歌まはれ
あふんと及みたる旅よ
そのひりてとよあけの
三つぐもりの細断の行
しや市の舟きよき
とく来てまをり
佐原の軍人
佐原の舟
おのれ

△おのれ
△おのれ

英学大類

一、扇橋、根江、小名木川
 二、大井川の
 三、行はる川
 四、山名
 五、小幡鑓
 六、石
 七、小幡鑓
 八、石
 九、小幡鑓
 十、石

全大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり
 大和田はもとこれなり

庚
二
卯

舎^{しや}_しひ^ひん^ん家^か子^こと^とん^ん久^く香^か
り^りと^とる^るこ^こし^しな^なら^らり^りと^とま^ま
ま^まけ^けし^しう^う平^{へい}山^{さん}忠^{ちゆう}則^{ねつ}永^{えい}保^ほ若^{じやく}
寛^{かん}田^{でん}成^{じやう}井^い清^{せい}花^か井^い柳^{りゆう}江^{かう}に^にま^ま東^{とう}
仲^{ちゆう}ら^らぬ^ぬ清^{せい}も^も柳^{りゆう}江^{かう}の^の池^いを^をま^まり^りて
留^{りゅう}ま^まい^いゆ^ゆく^く歌^かを^をま^まり^りて^てあ^あの^のま^まい^い
卯^{みづ}の^の月^{げつ}池^いを^をま^まり^り
名^なり^りの^の雨^う氣^きの^のま^まの^のま^まり^りて^てあ^あの^のま^まい^い
し^しつ^つま^まの^のま^まり^りて^てあ^あの^のま^まい^い

三日晴 清のまをり 香取のま又見
神社の石櫛のまをり 香取のま又見
天稚彦のまをり 社をり その
社のまをり 石櫛のまをり 石櫛あり
四方三尺五寸とあり 土の上あり
まをり 高さ四尺あり ありとありん
け下總國のまをり 練石のまをり 練
焼^やの^の石^{いし}の^のま^まを^をり^りて^てあ^あの^のま^まい^い

庚
二
卯

△
山

其石櫛下仰りし
その方へ是に付は
その方へ
平山忠則伊能
中打さか
りたる
久須
四日晴伊能景命
えとふ

△
山
大舟津より
但上の所を
本所

嶋の
相田
志陸
大宮
相田
嶋

六日晴人々
海つく小舟
田岩飯島
りあ
あま
ち
ち
の
磯の

磯前軍師是薩神社はそこは
ありし一齊衡三年三月ころ
大洗磯原あまあま海上のむら
かやくひんるるついであまさいも
さうほうのあまき右にらけ
みよる村の口をさし右にらけあま
とてあまあまの右にらけあま
とらあまのあまはらけのあま
其時神のうらみはあまのあま

と物多し

さるにあまのあまのあまのあま
ちよるあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
久香の軍命忠則片野春業あま
あまのあまの軍命あまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま

雨のしと大なる藤あり津宮か
 藤津に生くは板来よりこの里に
 遊女あるるるところに 雁部元
 喬の淵来洞けらるるにまらぬは
 おのれに今様の詞つるるに母中の
 大宮と云
 けりことし一舟にまらるるに
 大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云

大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云
 大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云
 大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云
 大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云
 大宮と云一舟にまらるるに
 ありと云ありと云ありと云

そのつらかりんらなるとおのれは
あまのつらかりんらなるとおのれは
みまのつらかりんらなるとおのれは
とくはつらかりんらなるとおのれは
よはつらかりんらなるとおのれは
いふつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは

いふつらかりんらなるとおのれは

おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは

おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは
おのれつらかりんらなるとおのれは

嘉徳の延
方の目へ

此の神は、みかみの神の御名を
 みまの御名に、みかみの御名に、
 たる御名に、の御名に、
 七子御名に、の御名に、
 此の御名に、の御名に、
 は、の御名に、の御名に、
 經石墳を、石の御名に、
 たる石の御名に、の御名に、
 くの御名に、の御名に、

大石持神少此古奈神何し
 乃の御名に、の御名に、
 東條の御名に、の御名に、
 此の御名に、の御名に、
 此の御名に、の御名に、
 神代大石殿系と酒に御名に、
 此の御名に、の御名に、
 官社の御名に、の御名に、
 此の御名に、の御名に、

大社のゆゑにさういふ名をいふ
 つて大貫の里の取方神社の社
 管岩新成 新後の 家子やとある
 には同見信好の父なり
 七日勝宗成の子にあらば水石を
 とむく 那珂河をとり 羅漢寺
 とよみ大寺の前の鏡の池もきこ
 せざるころ水石の池の石町
 宮島秀のころ 新成 石町の池
 流しあり

ある川の前影を總裁翠軒先生 五存
 命名の川人とし 其のそとに三三三
 州按化記水府志科 其の池とあり
 ありつてしし書し 少のし 金とあり
 なるそのわつとさけの池とあり
 ありしにけえとありや 大高子 高賢
 節 新成 ちかきとあり ありしに
 友部好正 新成 お田正定 新成 けり
 人とも事しとあり ありしに

牛久保の南の
水田の南の
水田の南の
水田の南の

てかふいぬきく水たしあき
つうりふ吉田神社あきいもと馬田の
けそなつひる地名や馬田と水
い馬かたつて神田といふ田もあつた
かみ田といふともあつたもつた
るあつた
ははこのめくつてついでに
つうりふ吉田の南に
水田といふ家ありていふ

の馬をばらばら
あつたもつた
行事後あつたもつた
つて向ひの草地山常福寺
つたもつた
るも天和のはつたもつた
山主の御殿とあり水田の殿の
たつたもつた
つたもつた

祐海大は武蔵國鹿のの大善寺よ
 和尙
 りうりうり任ふまひと世に道德なるま
 知識みんかりける余上人の十
 念を（註）世授うりて
 ねあまのあまうり子神のうまはあ
 けのりけあまあひたるん祐登は
 一習等は内ねとりねこころある
 一やいこころ

馬鹿の
 の馬をそ〜〜〜あ〜あ〜あ
 らきふま〜あ〜あ〜あ
 里成つて向ひの（註）福なるま〜つけさなる
 瓜連の里ありし延来々々〜まらあまの
 徳和の比（註）秘達と今いけま
 人の徳をま〜うが石の般の善提所
 浄字、檀林のねあ〜中の大寺こ今の
 庫（註）秘とく武蔵國流る大善寺なり
 秘位（註）道德なるま〜知識なるま〜

歌三十一

今十念を、しあがりてよめる

たれとらめちかると 神のまゝのまゝに

おのゝしよのちるゝに 社を以て

習はせ給ふはまゝに 子あり

たれとら

